

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

### ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
幼稚園は、一人一人の子どもの大切にされた指導や対応ができていると思いますか。	子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	幼稚園は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
【園から】○教師は、一人一人の子どもの大切にしているという意識をもって教育を進め、子どもは園生活で豊かな心を育てていると考えているが、保護者の中にはわずかだが「2」もある。再度、子ども一人一人の姿を観察し、友達との関わる中でつらい思いをしている子どもはいないか、友達となかよくできない原因はどこにあるのか、確認しながら教育に取り組んでいきたい。○教職員は、「3」「4」の占める割合が大きく、道徳・心の教育の充実に努めてきた意識が高い。保護者の評価は昨年同様である。更に協力体制を充実させていきたい。		

### ②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上
子どもは、自分の思いを十分に引き出し意欲的に活動していると思いますか。	先生方は、子どもの遊びや生活の充実に努めていると思いますか。
【園から】○意欲的に活動する姿も、保育の工夫に関しても、教職員の評価は、ともに「3」「4」である。これは、研究保育により、互いに保育を見合せて、子どもの興味関心を引き出し、意欲的に活動するための保育の工夫について協議を積み重ねてきた結果と捉える。保護者による評価では「2」の割合もわずかだが見られる。この結果を謙虚に受け止め、一人一人の子どもたちが自分の思いを十分に引き出して活動できるように、保育力の向上に今後も努めていきたい。	

### ③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり
子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。
【園から】○幼児期に身に付けておかなければならない生活のリズムや食育について、保護者教職員ともに不十分であると捉えている。今後も、園で体力作りや生活習慣について指導しながら、家庭への啓発も行っていきたい。

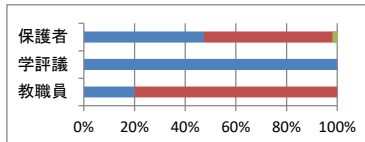
①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実	②特別支援教育の推進
<h4 style="text-align: center;">8 児童生徒理解</h4> 先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとする努力をしていますか。	<h4 style="text-align: center;">9 いじめや問題への対応</h4> 幼稚園では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。
<h4 style="text-align: center;">10 幼稚園の支援体制</h4> 幼稚園は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	
【園から】○教師は、子どものよさを見つけて理解しようとする努力し、保護者からも高い評価を得た。今後も、子どもを理解する姿勢を保っていきたい。○いじめや問題への対応については、保護者の中に「2」の意見もわずかだが見られる。○園では年間指導計画に沿って人権教育に取り組み、職員一同人権意識を喚起し合い、問題が起こった時にはその都度、問題解決に努めて、子どものいじめにつながる言動への対応を行っているが、保護者からすると、もっと速やかに適切な対応を願っている。更に一人一人に目を向け、対応していきたい。○支援を必要とする子どもの教育については、個別の指導計画を作成して、個の育ちを大切に「スモールステップ」を目標に取り組んできた。保護者の中には不十分と考える意見がある。マンパワー不足である状況の下、家庭との情報交換や協力等、連携を深めていきたい。	

①子どもたちの身近な安全対策の充実	②最適な学習環境の整備
<h4 style="text-align: center;">11 安全と事故防止</h4> 幼稚園は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	<h4 style="text-align: center;">12 施設・設備の安全管理</h4> 幼稚園の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。
【園から】○教職員による評価は、年間計画をもとに定期的に交通指導や避難訓練を積み重ね、日頃から遊具や用具の使い方について指導を繰り返してきた結果と捉える。しかし、保護者からの評価は、昨年度より不十分と示された。このことについて原因をさぐり、更に事故防止に努めていきたい。	【園から】○教職員は、安全点検を入念に行い、危険箇所があった場合は即座に修理しているため、全員が「4」「3」だが、保護者の1割は整備の必要を感じている。今後も、子どもが安全に遊べる環境を整えていきたい。

### ③家庭・地域社会との連携強化

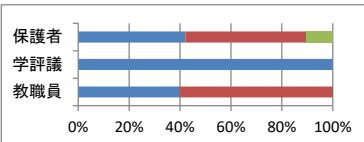
#### 13 教育方針・目標の理解

幼稚園は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



#### 14 家庭や地域との連携協力

幼稚園は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

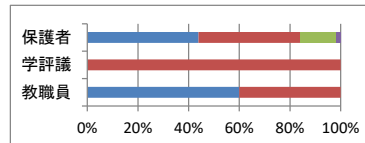


【園から】○園から保護者へは、園便り、クラス便り、保護者全体会、懇談会などを活用し、教育方針・目標をもとに伝え、子どもには始業式・終業式・集会等で努力目標を伝えてきた。そのため、保護者から「3」「4」の割合が昨年より増えている。更にわかりやすく伝える努力を続けていきたい。○家庭や地域との連携や協力については、保護者の1割が「3」であった。今後も、子どもの育ちを中心に据えて、家庭・地域との連携を図っていきたい。

### ③本校の教育

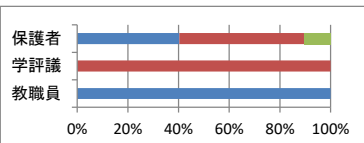
#### 15 1

子どもは、先生や友達に自分から思いを話していると思いますか。  
(3歳児：先生や友達とあいさつをしていますか)



#### 16 2

子どもは、自分の思いや考えを言葉で伝えていると思いますか。(3歳児：自分の思いを言葉で伝えようとしていると思いますか。)



【園から】○教職員は、「4」「3」の評価をしたが、保護者からは、「2」「1」が16%見られる。また、教職員は、子どもたちは自分の思いや考えを言葉で伝えるようになったと捉えたが、保護者の1割は、子どもは伝えることができないと捉えている。評価目標を達成できなかった原因を探り、コミュニケーション力のもととなる「あいさつ」と「思いや考えを話す」ことをどの子どもも進んで行うことができるような場作りや教師の援助を今後も引き続き工夫し指導していきたい。

### 来年度の具体的な取り組みについて

- 教育目標方針については学級・園便り、掲示等により分かりやすくし、あらゆる機会を通して情報発信を行う努力を行う。
- 保育の充実のための教材研究を積み重ね、子どもが主体的に遊びや活動に取り組めるような環境づくりを工夫していく。また、実践後は、子どもの姿から育ちを捉えて子どもにとって学びある環境や教師の援助であったか確認し、次の指導への手がかりを探るようにする。
- 生活のリズムや習慣は、園の指導だけでは身につかない。保護者と情報交換を密にし、後援会と連携しながら生活習慣アンケートの実施などを通して、実態に応じた手立てを考える。
- 挨拶の指導については、「あいさつ運動」を今後も継続するとともに、子どもが挨拶を交わすことの心地よさを実感できるよう個別にかかわっていく。
- 支援を必要とする幼児の育つ方向を職員同士や保護者と共有し、園内でも家庭でも共通の支援やかかわりを行うようにする。わが子の発達に不安を抱く保護者には、集団の中で生活する姿を細やかに伝え、必要に応じて専門機につないでいく。
- 健康な体作りについては、今後も野菜の栽培や食体験を通して、食への関心を高める。また、「なかよしタイム」の年間計画を見直し、季節や年齢別発達段階に応じた体操や基本的な動きを積み重ねて、体を動かす楽しさを味わわせる。
- 安全指導や避難訓練等を、日常的に繰り返し行う中で、子どもなりに危険時の対応ができるように指導していく。安全点検の徹底を図り、施設の整備については、教育委員会と連絡を密にして、修理や修復には即時に対応する。

### 学校関係者評価

- 先生方が協力合って全園児の成長を見守り、愛情をもって接するので、安心して子どもを預けることができ、子どもは家庭と同様に自分を出すことができている。  
○年齢に関係なく関わって遊んでいるのがよい。
- いきいきと楽しそうに活動している。子どものやりたいことを尊重した活動をしてもらっている。
- 個々の進み具合を想定して、保育内容が考えられているので、子どもは楽しむことができる。
- 降園時、先生が子どもの様子を笑顔で楽しそうに話してくれている。
- 自然と触れ合ったり季節の行事を体験したりと、家庭ではできない体験や遊びを通して、子どもたちは健やかに成長できている。
- 先生方から、子どものことをよく聞くので、クラスなど関係なくきちんと子どもを見ているのだと思う。
- 子どもたちをほめて認めてもらうので、笑顔でのびのびと成長している。
- 担任クラスの子にだけでなく、どの子にも平等に接することが必要である。
- 手のかかる子にかかりつきりになることで、周りで起きたトラブルが見えなくなったり、トラブル時の対応をきちんとしてほしい。困ったときや自分の思いを先生に伝えることができるように、先生と子どもの信頼関係を大事にしていくことが大事である。
- 教師が、子どもに学んでほしい思いや興味や関心を引き出す環境づくりや関わり方ができている。
- 子どもたちが支え合い、よい雰囲気生まれている。年長児になると、自分で考えて行動するようになり、育てるべき姿に向かっている。
- あいさつを恥ずかしがる姿も見られるが、性格的なものもあるだろう。小学校高学年になると、あいさつしなくなる傾向があるが、あいさつを受けると無意識のうちに返す姿を見る。あいさつを交わす環境の中で育っていくと、あいさつの習慣が身についていくと思われる。大人が、笑顔で元気に挨拶を行う姿を子どもの目に焼き付けることが有効と思われるので、今後も幼児期から継続して取り組んでほしい。
- 地域の保幼小中での共通の目標ができたので、今後も連携して取り組んでほしい。
- 最近では、SNSの普及によって、母親のコミュニケーション力が低下してきた。保護者同士が繋がると、協力や相談の体制もできていくと思われる。